



# 診察室の午後

白浜はまゆう病院  
泌尿器科部長 川嶋 秀紀

父は転勤が多かったため、私が子どもの頃、一家は和歌山を離れて暮らしていた。私は学校が休みになるたびに、祖母の待つ和歌山の家で過ごした。最初は新幹線に乗るまで母に送ってもらい、祖母には新大阪まで迎えに来てもらったが、そのうち東和歌山駅(今のJRR和歌山駅)まで自分で行けるようになった。父は転勤が多かったため、私が子どもの頃、一家は和歌山を離れて暮らしていた。私は学校が休みになるたびに、祖母の待つ和歌山の家で過ごした。最初は新幹線に乗るまで母に送ってもらい、祖母には新大阪まで迎えに来てもらったが、そのうち東和歌山駅(今のJRR和歌山駅)まで自分で行けるようになった。

## <53> 「和歌山の市電」

た。そこからは、迎えに来た祖母と市電に乗った。当時、和歌山市には路面電車が走っていた。東和歌山駅から来る線路と市駅からの線路が公園前で合流し、旧県立医大を右手に見ながらお城のお堀に沿って走り、小松原通りを抜けて和歌浦に向かっていた。古い市電はよく似合う。独特の揺れとモーターの音のする市電は好きであった。「車庫前」の電停のあった

もにぎやかだった。丸正百貨店の上階のレストランは、祖母によく連れて行ってもらった。家から南に行く半島状に突き出た雑賀崎がある。海は美しく、山に向かって階段状に建つ家々はイタリアの海岸を描いた絵画のようであった。和歌浦にはロープウェイがあり、山の上には回転展望台があった。有田市は祖父の出身地である。昔提(ぼだい)寺があり親戚も多かったのだ。よゝん連

れて行ってもらった。まだ蒸気機関車が走っていたと思っ。トンネルと青い海の紀勢線は今でも好きである。有田鉄道と野上電鉄も気になっていた。紀勢線で海南駅を通るたびに車窓から見えたおもちのような野上電鉄の電車はとても魅力的だったが、残念ながら一度も乗らずじまいで廃線になってしまった。祖母にねだって有田鉄道にさせてもらったことがある。ミカンの畑の中を軽快に走る赤とクリーム色の気動車がすてきだった。瀬峽や那智の滝には夜行列車に乗って連れて行ってもらう。朝になる

最近、JR九州の豪華列車が人気で予約が取れないと聞く。JR西日本や東日本でも豪華列車の運行が予定され注目されている。このような列車やオリエンタル急行もよいが、それにもまして、在りし日の和歌山の鉄道たちは私の心の中ではかけがえのない貴重なものとして輝いている。